

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390500342		
法人名	みなと医療生活協同組合		
事業所名	高齢者グループホームかめじま(つるユニット)		
所在地	名古屋市中区亀島一丁目5番30号-1		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和5年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jirvosyoCd=2390500342-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;jirvosyoCd=2390500342-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年11月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。  
ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切に、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気の中で生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。  
また、入居者様の普段の様子をお伝えするため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小学生が中学生となり頼もしくなるように、一つひとつの課題を真摯に解決して成長を遂げている事が手にとるように伝わる。開設から3年となる事業所です。家族アンケートにも「職員間で共有して、できる範囲で実現くださる」「いろんな点で相談ができ、親身で助かっている」「以前より職員のレベルが上がったと思う」と賛辞が挙がっていて、家族も事業所の充実に感謝しつつ日々の前進を歓んでいる様子です。満床、職員の定着率向上など数字にも反映されるとともに、自分の着替えは選べなくなった本人が大事にする人形に「寒いからケープかけてあげようね」と声をかける職員の姿があることに、理念の浸透と文化の高まりが確認できます

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。	理念は掲示するとともに職員が一堂に会する場では理念にそって振り返りをおこなっています。自分の着替えは選べなくなった本人が毎日抱きかかえている人形に「寒いからケープかけてあげよう」と声をかける職員がいることに浸透の手ごたえを感じます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敷地内に、学区が運営するふれあいセンター、みなと医療生協の組合員の活動場所がある。感染防止を対策しており、なかなか交流できていないが利用者と共にイベントに参加したり、場所を開放したり、少しずつ交流している。	敷地内には地域住民が集うふれあいセンターがあり、事業所からも数名が認知症カフェに参加できています。建物の中にはサービス付き高齢者向け住宅や喫茶コーナー、隣が保育園と「資源はたくさんある」ものの未だ感染症警戒体制が解けずもどかしい状況です	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みなと医療生協として認知症カフェを毎月隔週の月曜日に開催している。またボランティア講座の一つとして認知症の学習会にグループホームも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただき、また地域包括支援センターからもご意見をいただきサービスに反映させるようにしている。	未だ感染終息とはならず、多人数での参会は控えています。家族をはじめ予め意見を収受し、往診の日に医師・看護師と管理者・リーダーで短時間開催しています。会議内容は地域包括支援センターと電話などで連携を図り、意見収受のうえ管轄窓口へ届けています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密にとっているとは言えないが、入居相談を受けたり、運営推進会議の際には書面にて地域包括支援センターと連携を取っている。	地域包括支援センターからは空室の問い合わせが入ることもあり、何かと気にかけてもらえています。コロナ禍で出来上がった関係が習慣となっていて区役所とは電話でのやりとりとなる事が少なくないのですが、運営推進会議の報告は窓口に出向いています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の学習会を開催して職員への周知やユニットごとの会議で検討している。	管理者と計画作成担当者、他職員2名を担当委員として「身体拘束高齢者虐待防止委員会」を四半期開催しています。現在、身体拘束が必要な症状をもつ人はいませんが、3ヶ月間の振り返りを勉強会の内容に反映させて、言葉の置き換えなどが実現しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会、管理者を中心に学習・方針の検討を行い、職員向けに虐待に対する意識調査や学習会を定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習会を開催している。必要性については管理者が判断している状態であるが、該当者がいたため経過を職員と情報共有しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	応対できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みなど医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見箱を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。	「一日も早くガラス越ではない面会を願う」との声も入っていますが、9月にコロナ感染者が1名でインフルエンザも心配される季節となり、悩ましい状況にあります。声が遠いときは仲介役となったり、最近の様子を丁寧に説明することで代替とし、家族を支援しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。	「介護がやりたい」という思いが伴う職員が増えており、一人ひとりの利用者の要望に応えるよう職員が考え、動いていることは頼もしい限りです。一方、「いつもと様子が違うな」と見てとれば即個人面談となる態勢にあり、定着率も上がっています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内介護施設に協力を得ながら研修を行っている。毎年通信教育が受けられるシステムもある。(終了時に半額補助がある。)今後は、法人で取り組んでいるMBO(目標によるマネジメント)に事業所としても取り組む予定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みなど医療生協として介護事業所全体での会議を開催し情報交換している。また介護・看護活動発表会として学ぶ場を通して取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるできないにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべての職員が、入居者様を人生の先輩として、共に暮らす者としてかかわれるように生活を組み立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止対策を緩和しつつも継続しているため外出することは難しく、現時点ではご家族との面会以外は、電話等での連絡が行えるような支援しかできていない。	事業所では本人の普段の様子を写真に収め、毎月発行の「かめじまだより」に掲載して家族に届けています。家族もこまめに来所くださり、本人の好きな果物の差し入れもあります。おこづかいを預かっていても家族が先に動いてくださる為、各種在庫が途切れません	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了してもご本人・ご家族と連絡をとり、相談を受けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。	理念に基づき「業務に追われることなく寄り添う」ことが自然にできる文化が醸成されていて、入浴などマンツーマンの場面ではニーズを超えてウォンツを聞き取ることが叶い、本人の要望から「誕生日に喫茶店に行く」といったことが実現しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。	計画作成担当者兼介護支援専門員が2ユニットの介護計画を作成しています。時には介護支援専門員が家族訪問に合わせて出勤日を変える事もありますが、頻りに訪れる家族に助けられ、コロナ禍であっても意見入手がスムーズです	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に対しては気になることや起こったことを積極的に記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	みなと医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中の段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを、今後活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	みなと医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じてみなと医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。	診療所の医師が看護師を帯同して月2回の訪問診療をおこなってくださっています。診察には管理者が付き添い、往診記録と個人の介護記録に内容を残しています。年2回採血があり、その報告とともに半年間の診療記録を書面で家族に届けています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務だが看護職員が勤務しており、気になることは相談している。必要に応じてはみなと医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	みなと医療生協内の病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいか等の意向を聞いている。当施設での看取り介護については現在十分な体制ではないが、今後取り組んでいく方針であることを伝えている。往診医と体制について相談している段階である。	開設から3年となり体制も整いつつある昨今「看取りに取組む」ことも視野に入っており、連携している医療機関にも相談しています。職員の中には入職以前の勤務先で経験を積んだ者もありますが、多様性が見られる為「此处ではどうしたらいいか」を模索中です	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所に貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を計画していく予定となっている。	法定訓練の回数をつつがなく実施するとともに、1つは夜間設定としています。本年は水消火器を消防署から借り、利用者も体験しました。消防署が近くに在り「速やかに駆けつけるので待機しててください」と、二次災害への助言も得ています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを行っている。	年1回、プライバシー保護をテーマに研修会を開催することは、気になることを検討する場ともなっています。現在の利用者は全員が女性で、職員は15名中4名が男性ですが、同性介助の希望はありません。呼称はすべて「～さん」です	契約時には呼称や同性介助に係る要望について、確認をとっておくと良いと思います
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ち聞けるように、職員は意識するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようにしている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力をしてもらいながら、着ものや整容の支援をしている。2ヶ月に1度、地域から理美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、可能な範囲で一緒に行うようにしている。	敬老の日のお寿司は「イカ抜き」で注文したり、「寒くなったからタラ鍋パーティー」と、臨機応変に季節の食を楽しんでいます。また、3分1程の利用者には介護計画書に家事リハビリが入っていて、未だに包丁で野菜をカットしている人もいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じての栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけられるよう情報共有しながら検討している。	介護度の平均は2.9です。車いすを使う人は3名、その内「立位が保てない」のは1名です。その1名についても「朝はトイレで」を励行し、その後の時間帯は「本人の息があがる」ようならば「安静優先」としていますが、一番できたときで3回というレコードがあります	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めているが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。	拒否が強い2名には誘導に手練れた熟練職員が「週2回」を遵守できるよう尽力しています。湯は一人ひとり入れ替えて清潔であり、全員が一番風呂であることから入浴剤を選ぶことも来ています。3種類用意しており、「今日はどれがいいですか？」と尋ねています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているので、看護師に確認しながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染防止対策を継続しており、思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見る事ができる。	感染症の心配は絶えず、公園や八百屋への買い物に留まっているものの、身体的距離のとれる昔ながらの店舗で、蜜柑などのおやつを選ぶことを愉しんでいます。また、例年大きなクリスマスツリーが飾られる大型ショッピングセンターへの探訪は現在企画中です	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はご本人の希望があれば支援している状態。今後は、もう少し積極的に手紙や電話の支援ができるようにしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感を取り入れている。	5類移行となった今でもコロナ禍において取り決めた消毒などを継続中で、室内は清潔が保たれています。他には照明と換気に力を入れており、ロールスクリーンは日差しの入り具合で随時調整し、「寒くても換気を」が合言葉です	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感じられるようにしている。	入居前には「使い慣れたものを～」と家族に伝えていますが、実際はテレビや鏡の他は新たに購入した簡易なものが大半です。3名が化粧を続けていて、道具が並ぶ部屋もあります。また十分な広さがあるため、車いすを使うようになっても動線が確保できています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390500342		
法人名	みなと医療生活協同組合		
事業所名	高齢者グループホームかめじま(かめユニット)		
所在地	名古屋市中村区亀島一丁目5番30号-1		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和5年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;ijrvosyoCd=2390500342-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&amp;ijrvosyoCd=2390500342-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年11月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

“生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。  
ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切に、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気の中で生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。  
また、入居者様の普段の様子をお伝えするため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。”□

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小学生が中学生となり頼もしくなるように、一つひとつの課題を真摯に解決して成長を遂げている事が手にとるように伝わる。開設から3年となる事業所です。家族アンケートにも「職員間で共有して、できる範囲で実現くださる」「いろんな点で相談ができ、親身で助かっている」「以前より職員のレベルが上がったと思う」と賛辞が挙がっていて、家族も事業所の充実に感謝しつつ日々の前進を歓んでいる様子です。満床、職員の定着率向上など数字にも反映されるとともに、自分の着替えは選べなくなった本人が大事にする人形に「寒いからケープかけてあげようね」と声をかける職員の姿があることに、理念の浸透と文化の高まりが確認できます

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敷地内に、学区が運営するふれあいセンター、みなと医療生協の組合員の活動場所がある。感染防止を対策しており、なかなか交流できていないが利用者と共にイベントに参加したり、場所を開放したり、少しずつ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みなと医療生協として認知症カフェを毎月隔週の月曜日に開催している。またボランティア講座の一つとして認知症の学習会にグループホームも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただき、また地域包括支援センターからもご意見等をいただきサービスに反映させるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密にとっているとは言えないが、入居相談を受けたり、運営推進会議の際には書面にて地域包括支援センターと連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の学習会を開催して職員への周知やユニットごとの会議で検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会、管理者を中心に学習・方針の検討を行い、職員向けに虐待に対する意識調査や学習会を定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習会を開催している。必要性については管理者が判断している状態であるが、該当者がいたため経過を職員と情報共有しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	応対できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みなと医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見箱を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内介護施設に協力を得ながら研修を行っている。毎年通信教育が受けられるシステムもある。(終了時に半額補助がある。)今後は、法人で取り組んでいるMBO(目標によるマネジメント)に事業所としても取り組む予定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みなと医療生協として介護事業所全体での会議を開催し情報交換している。また介護・看護活動発表会として学ぶ場を通して取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるできないにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべての職員が、入居者様を人生の先輩として、共に暮らす者としてかかわれるように生活を組み立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止対策を緩和しつつも継続しているため外出することは難しく、現時点ではご家族との面会以外は、電話等での連絡が行えるような支援しかできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了してもご本人・ご家族と連絡をとり、相談を受けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に対しては気になることや起こったことを積極的に記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	みなと医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中の段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを、今後活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	みなと医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じてみなと医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務だが看護職員が勤務しており、気になることは相談している。必要に応じてはみなと医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	みなと医療生協内の病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいか等の意向を聞いている。当施設での看取り介護については現在十分な体制でないが、今後取り組んでいく方針であることを伝えている。往診医と体制について相談している段階である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所に貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を計画していく予定となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ちに聞けるように、職員は意識するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようにしている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力をしてもらいながら、着るものや整容の支援をしている。2ヶ月に1度、地域から理美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、可能な範囲で一緒に行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じての栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけられるよう情報共有しながら検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めていますが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているので、看護師に確認しながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染防止対策を継続しており、思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見ることができる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はご本人の希望があれば支援している状態。今後は、もう少し積極的に手紙や電話の支援ができるようにしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感は取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感じられるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。		